

平成 25 年 3 月 27 日

平成 24 年度第 4 回
いわき市食育推進委員会議事録

平成 24 年度第 4 回いわき市食育推進委員会 議事録

1 開催日時： 平成 25 年 3 月 27 日（水） 14：00 ～ 15：25

2 開催場所： 本庁舎 8 階 第 8 会議室

3 議事案件及び発言内容等：

(1) 報告事項

平成 24 年度食育モデル事業の事業評価について

委員長	はじめに、「平成 24 年度食育モデル事業の事業評価について」事務局より説明をお願いします。
事務局	(資料 1 に基づき説明)
委員長	事務局からの説明に関して、何か質問、意見等あれば発言をお願いします。
	(質問、意見等なし)

(2) 協議事項

① 市食育推進計画の見直しについて

委員長	はじめに、「市食育推進計画の見直しについて」事務局より説明をお願いします。
事務局	(資料 2 に基づき説明)
委員長	事務局からの説明に関して、何か質問、意見等あれば発言をお願いします。
委員長	策定スケジュール中の本委員会委員の公募委員の公募については、来年度途中でのこととなっているが、今回承認を得ることか。
事務局	本委員会において、検討課題として出されていた委員任期の年度完結とも関わることだと認識するが、現在、第 2 次計画の策定に向けた見直しを進めているところであり、現委員の任期については、任期終了まで継続することで調整したい。

委員 A	評価手法についてだが、放射能関連の評価については、第1次計画と第2次計画との比較評価の観点から実施した場合、困難であると考えているが。
事務局	評価の考え方については、第1次計画期間における課題等の抽出を行いながら第2次計画期間において特に重点的に行うべき事項等について、検討するとともに、本市食育の推進状況を把握するもの。放射能関連については、社会情勢の変化・市民に対する放射性物質問題に関する周知等の観点から、第2次計画に盛り込んでいくこととしたい。
委員 B	社会情勢の変化による現状の分析をもう少し詳細にするため、放射性物質の影響による肥満児の割合の増加や虫歯などによる歯への影響など、そのあたりについても統計データがあるのであれば、計画に盛り込んでいくことはできないか。
事務局	来年度実施する市食育推進計画に係るアンケート調査や現在既存する統計データ等を確認しながら検討していきたい。

② 市食育推進計画の見直しに係るアンケート調査の実施について

委員長	続いて、「市食育推進計画の見直しに係るアンケート調査の実施について」事務局より説明をお願いします。
事務局	(資料3-1・2に基づき説明)
委員長	事務局からの説明に関して、何か質問、意見等あれば発言をお願いします。
委員 C	「あなたは「食育」に関心がありますか。」の設問に係る説明資料のうち、「3色分類」については、回答側がわかりやすいように「3色分類」で一般的に使われている「赤・黄・青」の表現を使った方が良いのでは。
事務局	回答側がわかりやすい表現にできるよう検討したい。
委員 D	アンケート調査において、朝食を食べているか・いないかに留まらず、朝食を食べている場合であっても、その朝食の内容が適当かどうかについても把握する必要があるのではないか。
事務局	それに関連する調査として、朝食に限ったものではないが、「あなたは、主食・主菜・副菜を三つそろえて食べることが、1日に2回以上あるのは、週に何日ありますか。」の設問において、総括的な実態把握に努めることとしたい。

委員 E	<p>特に、小さな子どもがいる家庭における現在の放射性物質に対する不安がある現状を踏まえ、アンケート調査の設問に、放射能に関する設問をもっと増やし、その実態把握に努め、情報発信をしていくべきではないか。</p>
委員長	<p>現状として、放射性物質問題に関する不安があるのは確かだが、その設問が食育の観点からの調査であれば実施すべきであるものとして整理することが望ましいと考える一方で、それとは異なる観点からの調査であれば、今回のアンケート調査実施の趣旨とはズレが生じてしまうことが懸念されるのも事実である。</p>
事務局	<p>現状においても、放射性物質問題に対し、特に小さな子どもがいる家庭においては、不安を抱えていることは確かである。</p> <p>まず、1点目の不安がある中での実態を把握するための調査の実施と、2点目の実態把握をしたことでのそれに対する対策について市民に対し、わかりやすく周知するべきではないか、の2つの視点からお答えする。</p> <p>1点目については、アンケート調査による把握ではなく、全庁的に、様々な機会を捉えた市民からの質問等を通して、実態把握には努めているところ。</p> <p>また、2点目としても、全庁的に、放射性物質問題に対する不安解消として、市民とのリスクコミュニケーションの実施やあらゆる媒体を活用した情報発信に努めているところであり、今後は、これらについて、継続あるいは、更なる充実に努めていかなければならないものと考えている。</p>
委員 A	<p>アンケート調査の設問に、放射性物質問題の発生前・後において、食生活がどのように変化したかを加えるべきではないか。</p>
委員長	<p>今回のアンケート調査の実施の趣旨については、あくまでも第2次計画策定に係る見直しの観点から実施するものであり、今提案があったものは重要なものであると認識はできるが、今回の調査実施の趣旨とはズレが生じてしまい、趣旨があいまいになってしまうことが懸念されることから、別の手段での状況把握に努めるべきと考える。</p>

事務局	<p>放射性物質問題に対する不安などの実態把握については、親世代も含まれる16歳以上の「あなたは、日頃の食生活の中で悩みや不安はありますか。」の設問において、小さな子どもの実態も包括的に把握できるものと考えているが、委員の意見を踏まえた場合、15歳以下においても、16歳以上と同様の設問を設けることは可能であると考えます。</p>
委員 F	<p>計画を見直していくにあたり、社会情勢の変化における家族のあり方や核家族化の進行、また、高齢社会の観点から、それを見据えた世帯の構成比や人口の構成比などについて、5年・10年後を勘案した人口動態を把握しておくべきではないか。</p>
委員長	<p>事務局により、次の会議等において、それに関連した資料の提示などにより対応することで調整願いたい。</p>
委員 F	<p>現状において、独居世帯に対する対策は重要なものとなっている。因みに、今後、生活習慣病の予防及び改善につながる食育の推進については、どのように行っていくこととしているのか。</p>
事務局	<p>食育の前段に、市の健康づくり計画の基本的なものとして、健康いわき21があり、その中で生活習慣病の予防及び改善に向けた様々な対策を行っているところである。具体的な事例としては、世界禁煙デーに合わせた禁煙・あるいは受動喫煙に関する周知啓発や市出前講座等を通じた生活習慣病の予防及び改善に関する周知啓発・相談などを行っているところであり、また、より地域と密着した方策を講じるため、いわき市健康推進員協議会と連携を図りながら様々な事業を展開するなど、市の生活習慣病の予防及び改善に向けた対策を総合的かつ効果的に行っているところである。</p>
委員 G	<p>いわき市健康推進員協議会でも、各地区6方部において、「高血圧予防の料理教室」「糖尿病予防教室」「高齢者の料理教室」など様々な事業を展開しているところである。</p>

(3) 閉会